

## 曾良旅日記における時間と行動 —— 元禄二年と元禄四年との比較を通じて ——

文学研究科国文学専攻博士後期課程満期退学 相澤 泰司

### 一 はじめに

松尾芭蕉が元禄二年（一六八九）に『おくのほそ道』の旅に出た際、河合曾良を伴っていたことは広く知られている。その際、曾良が詳しい旅の記録を残していることも既に知られていることである。

また曾良は『おくのほそ道』の旅から二年後の元禄四年（二六九二）、近畿地方を一人で旅し、この際にも同様に詳しい記録を残している。曾良はいずれにおいても、天候や行動の記述とともに様々な形で時刻を記録している。

こうした記述のうち、特に出発と到着に関する時刻は、当時の芭蕉や曾良の旅の実態を知る上で大きな手掛りになると考えられる。そこで本稿では、特に出発と到着の時刻について取り上げ、更に芭蕉と共に旅をした元禄二年と、曾良が一人で旅をした元禄四年との比較を行ない、二つの旅の異同を明らかにすることを試みる。<sup>(一)</sup>

### 二 曾良旅日記における時刻表現及び不定時法の考え方

考察にあたり、まず両旅日記中の時刻に関する表現を整理した。今回、調査した時刻表現に関する記述は以下のとおりである。

なお「元禄2」「元禄4」の項目の左側の漢数字は、それぞれ記された回数を示している。

表1

	表記	元禄2	元禄4	備考
表記		元禄2	元禄4	
尅・刻	九六	七六	元禄二年：「即刻」3例を除く	
未明	〇	三		
暁	一	〇	「曙」「東雲」は無し	
夜明	〇	三		
明テ	〇	一		
明方	〇	一		

子のみ	日未少残ル	日ノ入	夜半	夜中	夜	夕・夕方	昏	黄昏	暮	昼	朝	早朝	日(ノ)出
○	一	一	二	七	二六	一四	○	一	一五	三〇	二二	一	四
○	○	一	○	五	一九	三	二	○	二七	一八	四	七	二
		「日入」表記、「日没」は無し			元禄二年「前夜」2、「其夜」6、「ソノ夜」1、「此ノ夜」1、「二夜宿」1、「今夜」1、「此夜」1、「夜食」1、「夜五ツ」1 合計十五例除く 元禄四年「前夜」1、「夜前」2 「其夜」2、「ソノ夜」2 合計5例除く	元禄二年「夕飯」2、元禄四年同例除く、「夕食」共に0	「クル」(≡暮る)として用いる		元禄2「雨暮氣色」除く(「日暮」含む)	元禄二年「朝飯」3、「朝霧」1、「翌朝」1、「明朝」1除く、元禄4「朝飯」3除く 昼前・昼時・昼・昼時分・昼比等を含む。 元禄二年「昼食」「昼飯」各1除く、元禄四年：同例0			

右のうち「尅・刻」とあるのは、例えば「子ノ尅」や「子ノ刻」の様に表記されているものを指す。逆に「子のみ」とあるのは、「子ノ刻」や「子ノ尅」と表記されず、単に「子」とだけ表記されている

丑のみ	寅のみ	卯のみ	辰のみ	巳のみ	午のみ	未のみ	申のみ	酉のみ	戌のみ	亥のみ	九ツ	八ツ	七ツ	六ツ	五ツ	四ツ
○	○	○	○	○	一	○	○	○	○	○	○	○	一	○	○	○
															「夜五ツ」と表記	
																方角記述はあり

ることを示している。

右を見ると、「ノ刻」「ノ尅」という表記を曾良は最も多用しており、これは現在で言う「何時」のような形での表記方法に該当し、時刻表記の方法としては当然と言つてよいであろう。<sup>③</sup>

次に、曾良が用いている時刻表記を現在の時刻表記として考えるため、当時用いられていた不定時法について簡単に説明したい。

時間を表わす一単位、すなわち定時法で言う「一時間」、不定時法の言い方で「一刻」の長さについて、現在用いられている定時法では、いつでもその時間の長さ・時間の量に変化はない。夏でも冬でも、昼間でも夜でも一時間は同じ一時間の長さである。それに対して不定時法は夏と冬、昼と夜とでは、それぞれの時間の長さ・時間の量に違いがある。その理由は太陽の運行に基づき、それぞれ夜の長さ、昼の長さから一刻の長さを決定していたためである。つまり昼の一刻は、夏と冬とでは夏の方が長く、冬の方が短い。逆に夜の一刻は夏の方が短く、冬の方が長いことになる。

現在の定時法では一日を二十四等分している。不定時法では一日を十二分割しているが等分ではない。右に述べたように、昼間の「一刻」は昼間の時間を元に六等分したものであり、夜の「一刻」は夜の時間を六等分したものである。

さらに昼と言ひ、夜と言つた場合も、現在とは定義が異なっていた。現在の考え方では昼間は日の出から日没まで、夜は日没から日の出までとなるが、不定時法の考え方では昼間は明六ツから暮六ツ

まで、夜は暮六ツから明六ツまでとされていた。一般的に明六ツは日の出、暮六ツは日没と理解されることが多いが、実際の不定時法では明六ツは日の出の二刻半（三十六分）前、暮六ツは日没の二刻半（三十六分）後とされていた点にも注意しなければならない。

なお時刻の呼び方であるが、現在の概ね夜中の零時前後を九ツとして、一刻（定時法的に言う二時間）ごとに数を減じて、八ツ、七ツとなり、四ツまで数えて、現在の概ね昼の十二時前後を再び九ツとして同様に減じて行く数え方をする。夜中の零時から昼の十二時までを六分割、昼の十二時から夜中の零時までを六分割し、一日を十二分割することになる。なぜ九から始まり減つてゆくのかについては諸説あるが、明確には分つていないようである。

またこれとは別に、同様に一日を十二分割する方法として十二支を当てはめる十二時辰法がある。この場合、夜中の零時を子の中刻とする場合が多い。この時刻表記法は定時法として考えられることもあるが、実際には江戸時代には不定時法として用いられ、子の中刻が夜九ツと考えられていたようである。

以下本稿では、数字による時刻表示方法による一単位時間を「一刻」、十二支を用いた時刻表示方法による一単位時間を「二時辰」と呼ぶことにする。

いま不定時法の刻限表記を現在の時刻表記に換算したものが表2である。③・④の「東京」とは日本橋付近を想定している。

表2

			①定時法	②不定時法 (仮定)	③夏至 (東京2016/06/21)	③冬至 (東京2016/12/21)
		日の出		6:00	4:23	6:44
		日没		18:00	19:02	16:34
		昼間		13:12	15:51	11:02
		夜		10:48	8:09	12:58
		昼の一刻		2:12	2:38	1:50
		夜の一刻		1:48	1:21	2:09
子		夜四ツ半	23:00	23:06	23:01	22:34
	上刻		23:00 ~ 23:40	23:06 ~ 23:42	23:01 ~ 23:28	22:34 ~ 23:17
	中刻	夜九ツ	23:40 } 23:00	23:42 } 0:00	23:28 } 23:42	23:17 } 23:39
	下刻		0:20	0:18	23:56	0:00
			0:20 ~ 1:00	0:18 ~ 0:54	23:56 ~ 0:23	0:00 ~ 0:43
丑		夜九ツ半	1:00	0:54	0:23	0:43
	上刻		1:00 ~ 1:40	0:54 ~ 1:30	0:23 ~ 0:50	0:43 ~ 1:27
	中刻	夜八ツ	1:40 } 2:00	1:30 } 1:48	0:50 } 1:04	1:27 } 1:48
	下刻		2:20	2:06	1:17	2:10
			2:20 ~ 3:00	2:06 ~ 2:42	1:17 ~ 1:44	2:10 ~ 2:53
寅		夜八ツ半	3:00	2:42	1:44	2:53
	上刻		3:00 ~ 3:40	2:42 ~ 3:18	1:44 ~ 2:11	2:53 ~ 3:36
	中刻	暁七ツ	3:40 } 4:00	3:18 } 3:36	2:11 } 2:25	3:36 } 3:58
	下刻		4:20	3:54	2:39	4:19
			4:20 ~ 5:00	3:54 ~ 4:30	2:39 ~ 3:06	4:19 ~ 5:03
卯		暁七ツ半	5:00	4:30	3:06	5:03
	上刻		5:00 ~ 5:40	4:30 ~ 5:10	3:06 ~ 3:46	5:03 ~ 5:43
	中刻	明六ツ	5:40 } 6:00	5:10 } 5:24	3:46 } 3:47	5:43 } 6:08
	下刻		6:20	5:50	4:26	6:23
			6:20 ~ 7:00	5:50 ~ 6:30	4:26 ~ 5:06	6:23 ~ 7:03
辰		明六ツ半	7:00	6:30	5:06	7:03
	上刻		7:00 ~ 7:40	6:30 ~ 7:14	5:06 ~ 5:59	7:03 ~ 7:39
	中刻	朝五ツ	7:40 } 8:00	7:14 } 7:36	5:59 } 6:25	7:39 } 7:58
	下刻		8:20	7:58	6:51	8:16
			8:20 ~ 9:00	7:58 ~ 8:42	6:51 ~ 7:44	8:16 ~ 8:53
巳		朝五ツ半	9:00	8:42	7:44	8:53
	上刻		9:00 ~ 9:40	8:42 ~ 9:26	7:44 ~ 8:37	8:53 ~ 9:30
	中刻	朝四ツ	9:40 } 10:00	9:26 } 9:48	8:37 } 9:04	9:30 } 9:48
	下刻		10:20	10:10	9:30	10:07
			10:20 ~ 11:00	10:10 ~ 10:54	9:30 ~ 10:23	10:07 ~ 10:43
刻		朝四ツ半	11:00	10:54	10:23	10:43
	上刻		11:00 ~ 11:40	10:54 ~ 11:38	10:23 ~ 11:16	10:43 ~ 11:20
	中刻	昼九ツ	11:40 } 12:00	11:38 } 12:00	11:16 } 11:42	11:20 } 11:39
	下刻		12:20	12:22	12:08	11:57
			12:20 ~ 13:00	12:22 ~ 13:06	12:08 ~ 13:01	11:57 ~ 12:34
		昼九ツ半	13:00	13:06	13:01	12:34

			①定時法	②不定時法 (仮定)	③夏至 (東京2016/06/21)	③冬至 (東京2016/12/21)
		日の出		6:00	4:23	6:44
		日没		18:00	19:02	16:34
		昼間		13:12	15:51	11:02
		夜		10:48	8:09	12:58
		昼の一刻		2:12	2:38	1:50
		夜の一刻		1:48	1:21	2:09
未		昼九ツ半	13:00	13:06	13:01	12:34
	上刻		13:00 ~ 13:40	13:06 ~ 13:50	13:01 ~ 13:54	12:34 ~ 13:10
	中刻	昼八ツ	13:40 ) 14:00	13:50 ) 14:12	13:54 ) 14:21	13:10 ) 13:29
	下刻		14:20	14:34	14:47	13:47
			14:20 ~ 15:00	14:34 ~ 15:18	14:47 ~ 15:40	13:47 ~ 14:24
申		昼八ツ半	15:00	15:18	15:40	14:24
	上刻		15:00 ~ 15:40	15:18 ~ 16:02	15:40 ~ 16:33	14:24 ~ 15:01
	中刻	夕七ツ	15:40 ) 16:00	16:02 ) 16:24	16:33 ) 16:59	15:01 ) 15:19
	下刻		16:20	16:46	17:25	15:38
			16:20 ~ 17:00	16:46 ~ 17:30	17:25 ~ 18:18	15:38 ~ 16:14
酉		夕七ツ半	17:00	17:30	18:18	16:14
	上刻		17:00 ~ 17:40	17:30 ~ 18:10	18:18 ~ 18:58	16:14 ~ 16:54
	中刻	暮六ツ	17:40 ) 18:00	18:10 ) 18:36	18:58 ) 19:38	16:54 ) 17:10
	下刻		18:20	18:50	19:38	17:34
			18:20 ~ 19:00	18:50 ~ 19:30	19:38 ~ 20:18	17:34 ~ 18:14
戌		暮六ツ半	19:00	19:30	20:18	18:14
	上刻		19:00 ~ 19:40	19:30 ~ 20:06	20:18 ~ 20:45	18:14 ~ 18:58
	中刻	宵五ツ	19:40 ) 20:00	20:06 ) 20:24	20:45 ) 20:59	18:58 ) 9:19
	下刻		20:20	20:42	21:13	19:41
			20:20 ~ 21:00	20:42 ~ 21:18	21:13 ~ 21:40	19:41 ~ 20:24
亥		宵五ツ半	21:00	21:18	21:40	20:24
	上刻		21:00 ~ 21:40	21:18 ~ 21:54	21:40 ~ 22:07	20:24 ~ 21:07
	中刻	夜四ツ	21:40 ) 22:00	21:54 ) 22:12	22:07 ) 22:21	21:07 ) 21:29
	下刻		22:20	22:30	22:34	21:50
			22:20 ~ 23:00	22:30 ~ 23:06	22:34 ~ 23:01	21:50 ~ 22:34
		夜四ツ半	23:00	23:06	23:01	22:34

表2上段の欄①「定時法的」とあるのは各刻限を均等に十二等分したもの、つまり一刻を等しく二時間としたものである。これは単に定時法を不定時法の呼び方にしただけであり、不定時法の実態とは異なる。但しこのようにして不定時法を現行の時刻表記で表わす方法はしばしば行なわれており、誤解を生む原因にもなっているようである。

表2上段の欄②のように一種の理想状態の春分或いは秋分として、日の出が六・〇〇、日没が一八・〇〇と仮定すると、現在の考え方では昼と夜がそれぞれ十二時間で等しいことになる。しかし不定時法の考え方では、昼は夜明け(六・〇〇)より三六分早い明六ツの五・二四から、日没(一八・〇〇)後三六分経った暮六ツの一八・三六までの十三時間十二分となり、夜は暮六ツ(一八・三六)から明六ツ(五・二四)までの十時間四十八分となる。もちろん天文学的に言えば、夜は前日の暮六ツから当日の明六ツまでとなるか、または当日の暮六ツから翌日の明六ツまでとなり、日を跨ぐためにそれぞれ昼夜の時間、一刻の長さも厳密には僅かに異なるが、今回はその差は無視しても構わないと判断し考慮しなかった。

次に、もう少し詳しく表2の不定時法算出方法について、②を例に説明する。

基準になるのは日の出と日の入りの時刻であるが、不定時法の場合には、日の出と日の入りから算出される明六ツ・暮六ツが更に基準となる。右に述べたように、表2②の場合、不定時法では昼の時

間は十三時間十二分、夜の時間は十時間四十八分になる。

次に昼間の一刻の長さを求める為に、昼間の長さ十三時間十二分を六等分すると一刻の長さは二時間十二分となる。明六ツ五・二四に二時間十二分を加算した七・三六が朝五ツとなる。以下同様に二時間十二分を加算してゆけば、順次求めることができる。

夜の場合も同じ計算方法である。右によって求められた夜の長さ十時間四十八分を六等分すると、夜の一刻は一時間四十八分になる。暮六ツの一八・三六に一時間四十八分を加算すると二〇・二四となり、これが次の宵五ツとなり、以下同様に一時間四十八分を加算してゆけばよい。

ただし、右にも述べたように子の中刻が夜九ツに当ると同様、明六ツは卯の中刻に該当する。すると卯の刻は七ツ半に始まり、六ツ半に終わることになるので、ここで「半刻」の単位を導入すると、昼夜それぞれの時間の分割数は二倍の十二になる。昼間の時間である十三時間十二分を十二等分すると、六六分が半刻の時間に相当する。そこで明六ツ五・二四の六六分後の六・三〇が明六ツ半となつて、卯の刻の終り $\parallel$ 辰の刻の始まりとなる。これに更に半刻の六六分を加えると辰の中刻 $\parallel$ 朝五ツとなり、先程と同様七・三六になる。

また半刻から半刻までの一刻が一時辰に相当するので、昼の一刻である二時間十二分を三等分した四四分ごとに、昼の一時辰の上刻・中刻・下刻が求められる。

夜についても同様である。夜の一刻に相当する一時間四十八分を

三等分した三六分ごとに、夜一時辰の上刻・中刻・下刻となる。

以上を模式的に示すと図1のようになる。

ここで問題になるのは明六ツを含む卯の刻と、暮六ツを含む酉の刻である。この二つは言わば夜と昼の境界に位置するため、昼の一刻・一時辰、夜の一刻・一時辰と同様には考えられなくなる。図1からも見て取れるように、卯の刻と酉の刻は、夜の半刻と昼の半刻とを併せ持つことになり、一時辰の長さも昼夜一時辰のいずれとも異なってくる。

また図1で、暁七ツは寅の刻のちょうど中央、朝五ツは辰の刻の中央に位置しており、昼・夜の一時辰の場合、その中央に「半」ではないキリのいい刻限が位置することになる。しかし六ツ時は必ずしもそうはならない。図1の場合では明六ツは暁七ツ半の方の夜側に寄っており、暮六ツも同様に暮六ツ半の夜側の方に寄っている。これは表2②の場合（不定時法では）昼の時間よりも夜の時間の方が短いことにより、当然夜の一刻・半刻も短くなっているからである。

表2②に比べて、昼よりも更に夜が短い③の夏至の場合を見てみると、暮六ツの時刻一九・三八はもつと夜側に寄ったことで、酉の中刻の終り⇨下刻の始まりの時刻と同じになってしまっている。これは「中刻」という呼び方からすると奇妙ではあるが、右に述べてきたような不定時法の原理に基づく算出方法からすると、言わば止むを得ない結果ということになるだろう。

図1 表2②における明六ツ・暮六ツ前後を図式化したもの



なお昼九ツ（現代で言う正午）についても付言しておく。不定時法の場合、昼九ツは昼間の時間の中央に相当する。つまり太陽が真南に位置する南中時刻と同義である。表2②の場合、一種の理想状態であるため、六時の日の出と十八時の日没の中央に該当するちょうど十二時が昼九ツになっている。しかし表2③や④では昼九ツが十二時になっていない。これは③・④とも東京日本橋付近の日の出・日の入りに基づいて計算しているためである。東京日本橋付近では確かに太陽自体はこの時刻に南中しているのだが、現在の時刻制度である日本標準時は、明石の東経一三五度を基準子午線としているため、この時点で明石ではまだ太陽が南中していないからである。これは現在でも同様であり、東京における太陽の南中時刻は十二時よりも早いのがふつうである。したがって昼九ツが十二時になっていないことは問題にはならない。早朝のテレビの気象情報で各地の模様を中継している時、東日本では既に明るいのに、西日本や九州ではまだ暗いのと同じ現象である<sup>(四)</sup>。

既に記したように、不定時法の時刻を求めるためには当該地点での日の出と日没の時刻が必要になる。つまり今みた南中時刻のように、場所が異なると当然時刻も異なってくる。ただし注意しなければならぬのは、場所が違うから不定時法の時刻が異なるのではなく、場所ごとに日の出・日の入りの時刻が違っているから、異なった結果になるということである。したがって仮に異なる二地点であっても、その二地点の日の出・日の入りの時刻が同じであれば、

不定時法では同じタイムテーブルが導き出されることになる。

地点ごとの日の出日の入りの時刻は基本的には緯度と経度から算出することができる（実際には高度や周囲の地形の影響も受ける<sup>(五)</sup>）。しかし複雑な計算式になるため<sup>(五)</sup>、本稿では広く再検証性を考慮し、公開されているインターネットのサイトに計算を委ねることとした。今回、緯度・経度に基づき日の出・日の入りを算出する際には、国立天文台のページ<sup>(六)</sup>によっている。

このページでは「日時」と「計算地点」を入力すると「日の出入り・南中時」のほかにも「夜明け・日暮れ」、「月の出入り・南中時」等を求めることができる。

入力する日時のデータとしては、元禄二年・四年それぞれの旧暦日付を陽暦（グレゴリオ暦）に直したものを<sup>(七)</sup>用いた。また年は便宜上二〇一六年を入力データとした。

天文学的には、太陽暦の日付が同じであっても日の出・日の入りの時刻が完全に一致するわけではない。元禄二年（一六八九）一月一日の日の出・日の入りの時刻と平成二十八年（二〇一六）年一月一日の日の出・日の入りの時刻とは、厳密には違いがあると当然予想される。国立天文台のページでは元禄二年は入力データ範囲外のため計算結果を示せない。しかし二〇一六年と二〇一七年を例にとってみても、東京における二〇一六年一月一日の日の出は六・五〇、日の入りは一六・三八だが、二〇一七年一月一日だと日の出は六・五一、日の入りは一六・三九になり、僅かではあるが異なっ



いる。しかしこれも本稿の性質から問題視しなかったことを断っておく。

また「計算地点」としては、同じく「こよみの計算」のページにおいて、入力方法として Google Map を選択できるので、これを用いた<sup>(八)</sup>。もちろん元禄二年『おくのほそ道』の旅については芭蕉の宿泊地として曾良の記す場所をかなり狭く特定できる場合もあるが、おおよその地点までしか分らないことが多い。元禄四年の場合についてはほとんど詳細には分っていないと言つてよい。したがって場所の特定に関しては本稿の恣意性が入らざるを得ない。後述するように本稿で入力データとして用いた緯度・経度については、これを掲載することで広く御高見を待ちたいと思う。

ただ、緯度・経度の差が距離に及ぼす影響ということでは、緯度一秒の違いは約三一メートル、また経度は東京近辺の北緯三十五度付近で一秒の違いは約二五メートルである。これも本稿では誤差の範囲内と考えることとした。

以上、不定時法の時刻表記の導き出し方と、本稿での限界について述べた。右ではかなり原則通りに不定時法の時刻について考えたわけだが、しかしながら当時は、もとより時計など普及しているはずもなく、これほど厳密に用いられていたわけではない。また不定時法の考え方、受け取り方自体にも混乱があったと言われるほどである。特に上刻・中刻・下刻については混乱していたようで、暦法での時刻と、民間での受け取られ方に差があり、その差は半刻（現

代の時刻制度で約一時間）にもなったという<sup>(九)</sup>。上刻・中刻・下刻については曾良が多用しており、本稿としても多大な関心を払わざるを得ないが、ひとまず既述のように不定時法算出の原理に則ることにした。

### 三 曾良旅日記における発着時間

不定時法の求め方について述べたところで、次に実際の曾良旅日記の発着に関する記述について考察する。

曾良の旅日記は元禄二年と、元禄四年についてであることは冒頭に記した通りである。このうち元禄二年の曾良の時間表記に関しては早乙女常太郎氏による先行研究があり<sup>(十)</sup>、この中で氏は不定時法を現代の時刻に換算している。まずはこの早乙女氏論文における、不定時法を確認する。

早乙女氏は「俳文藝」第二三号・二五ページにおいて、先に本稿が表2の②で示した一種の理想状態としての春分あるいは秋分について、表形式で現代の時刻に換算した結果を示している。つまり日の出が六・〇〇、日没が一八・〇〇と仮定して、不定時法での各刻限を計算している。これを見ると本稿の計算結果（表2②）と一致している。

夏至の場合・冬至の場合は、早乙女論文では、夏至の日の出・日の入りの時刻を四・二五と一九・〇〇（本稿表2③では四・二三、一九・〇二）、冬至の日の出・日の入りの時刻を六・四七と

一六・三二一（本稿表2④）では六・四四、一六・三四）としている。そのため計算結果が微妙に異なっているが、ほぼ同じ結果を得ており換算法として同一と判断し得るに足る。

以上から、本稿と早乙女氏論文における不定時法の換算法は同一であるとして問題は無いと考える。

そこで次に本稿では、まず元禄二年・四年における時間に関する記述と同時に発着の記述があるものに関して整理することにした。

以下に掲げる表3・表4は、それぞれ元禄二年・四年について、出発と時刻とに關し両方について記述された場合を一覧にしたものである。表5・表6は同様に到着に關する記述と時刻との両方が表記された場合を一覧にしたものである。

ただし最初に断っておく必要があるのは、曾良は単に出発・到着の事実のみを記して、時間表記をしていない場合の方が多いということである。出発に關しては、元禄二年の場合は三月二十七日～九月六日までの一五六日のうちの三二例、元禄四年の場合は三月四日～七月二十五日までの一三九日のうちの四十例であり、それぞれ全体の約二〇%、三〇%に当る。

同様に到着に關しては、元禄二年の場合は一五六日のうちの五十例、元禄四年の場合には一三九日のうちの三十二例であり、それぞれ全体の約三〇%、約二五%にあたる。

これを以て全体を推測するには不十分な感は否めないが、旅の実態の一端に触れている可能性を考えてみたい。

次に表の各項目について簡単に説明する。

「旧暦日付」とは旅日記自体に記されている日付であり、「陽暦日付」とはこれを現行の太陽暦にした日付である。「状況」としたのは時間に関する記述前後の文章である。推定緯度・推定経度は既述の通り、国立天文台の「こよみの計算」<sup>2)</sup>、Google Mapを用いて示された緯度と経度を記載した。「推定時間」とあるのが、本稿の「<sup>2)</sup>」で説明した方法により不定時法を現代の時刻制に換算したものである。また表3・表5のみに存在する項目「早乙女論文推定時間」は、早乙女氏の「『曾良旅日記』の時刻」に記載されている、同じ箇所について推定している時刻である。

本稿と早乙女論文とで推定時間が微妙に異なっている理由は、計算式に入れる数値、この場合日の出・日没の時刻が異なっていることによる。その原因は推定地点（緯度・経度）が微妙に異なっているからだと考えられる。（早乙女論文は逐一その緯度・経度の推定値を掲載していない。）しかし本稿で推定した時間と、早乙女氏論文での推定時間を比較すると、その差は僅かであり、中には一致するものもある。既に右で確認したことではあるが、本稿の換算方式で特に問題無いと考えられる。

次に表3と4とを、つまり元禄二年と四年との出発時刻について比較してみる。

表3 元禄2年曾良旅日記の発発に関する時間

旧暦 日付	陽暦 日付	時間に関する 表記	状況	場所	備考	推定緯度	推定経度	推定 標高	推定時間	早乙女論文推 定時間	日出 時刻	日の 出前
3/27	5/16	日出	深川出船	深川		35.68407651	139.7956784	0	4:35	4:36	4:35	●
3/28	5/17	辰上剋	(雨) 止二依テ宿出	春日部	前泊地	35.98056855	139.7616948	6	5:13 ~ 6:04	5:16 ~ 6:07	4:33	
3/29	5/18	辰ノ上剋	マ、ダヲ出	間々田	前泊地	36.2625881	139.7621655	26	5:12 ~ 6:03	5:16 ~ 6:07	4:31	
4/1	5/19	辰上剋	宿ヲ出	鹿沼	前泊地	36.56713499	139.7472082	149	5:10 ~ 6:02	5:11 ~ 6:02	4:29	
4/2	5/20	辰ノ中剋	宿ヲ出	日光上鉢石町		36.75325509	139.6051691	597	6:00 ~ 6:26 ~ 6:52	6:02 ~ 6:58	4:26	
4/3	5/21	辰上剋	玉入ヲ立	玉生		36.7749402	139.8483865	259	5:07 ~ 5:59	5:11 ~ 6:02	4:26	
4/18	6/5	午ノ剋	高久角左衛門宿ヲ立	高久		36.99123131	140.0629418	314	10:18 ~ 12:58	10:19 ~ 12:55	4:17	
4/20	6/7	(辰) 下剋	湯本ヲ立	那須湯本		37.09678986	140.0014481	822	6:45 ~ 7:38	6:51 ~ 7:43	4:14	
4/29	6/16	巳中剋	発足	須賀川		37.2862189	140.3740954	260	8:31 ~ 8:58 ~ 9:25	8:33 ~ 9:26	4:14	
5/1	6/17	日出	〜ノ比宿ヲ出	郡山		37.39817555	140.3847264	229	4:14	4:16	4:14	●
5/3	6/19	巳ノ上剋	(雨) 止。飯坂ヲ立	飯坂		37.83003965	140.4542398	96	7:38 ~ 8:32	7:39 ~ 8:32	4:14	
5/4	6/20	巳ノ剋	白石ヲ立	白石		38.00320691	140.6209713	50	4:57 ~ 7:38	4:57 ~ 7:37	4:13	
5/8	6/24	巳ノ剋	(小雨) ~ヨリ晴ル。仙臺ヲ立	仙台		38.26025744	140.8706971	41	7:38 ~ 10:17	7:37 ~ 10:17	4:13	
5/9	6/25	辰ノ剋	塩釜明神ヲ拜。帰而出船。	塩釜		38.318841	141.0126154	55	4:56 ~ 7:37	4:57 ~ 7:37	4:12	
5/13	6/29	巳ノ剋	〜ヨリ平泉へ趣	一関		38.93255295	141.1325799	23	7:37 ~ 10:18	7:40 ~ 10:20	4:12	
5/27	7/13	辰ノ中剋	尾花沢ヲ立テ立石寺へ趣	尾花沢	清風宅と解す	38.60629114	140.404338	98	5:59 ~ 6:26 ~ 6:52	6:00 ~ 6:52	4:23	
6/1	7/17	辰刻	大石田を立。辰刻、一栄、川水、弥陀堂送ル	大石田		38.58740518	140.3734852	62	5:09 ~ 7:47	5:13 ~ 7:49	4:26	
6/28	8/13	朝	晴。中村ヲ立。	中村	前泊地。天候発着併記。日出後とする	38.43924646	139.5929503	112	4:52 ~	無し	4:52	●
7/1	8/15	巳ノ剋	村上ヲ立	村上		38.22646802	139.4790812	7	8:03 ~ 10:31	8:06 ~ 10:33	4:56	
7/2	8/16	辰ノ刻	〜立	築地村		38.06005386	139.3583831	10	5:36 ~ 8:04	5:39 ~ 8:06	4:58	
7/4	8/18	辰ノ上剋	弥彦ヲ立	弥彦		37.70672818	138.8259579	60	5:38 ~ 6:28	5:39 ~ 6:28	5:01	
7/5	8/19	辰ノ上剋	〜(雨) 止。出雲崎ヲ立	出雲崎		37.54246671	138.6865568	6	5:41 ~ 6:30	5:39 ~ 6:28	5:04	
7/6	8/20	昼時	鉢崎ヲ〜黒井ヨリスグニ濱ヲ通テ、今町へ渡ス	鉢崎	鉢崎、午中刻とした	37.32089295	138.4375151	6	11:24 ~ 11:49 ~ 12:13	11:47	5:06	
7/11	8/25	巳ノ下剋	高田ヲ立	高田		37.11825447	138.2439213	11	9:48 ~ 10:36	9:44 ~ 10:33	5:11	
7/27	9/10	巳ノ上剋	〜立	小松		36.40734673	136.4488555	2	8:23 ~ 9:09	8:22 ~ 9:08	5:32	
8/7	9/20	辰ノ中剋	〜全昌寺ヲ立	全昌寺		36.3013455	136.3087028	8	6:56 ~ 7:18 ~ 7:40	6:51 ~ 7:46	5:40	
8/8	9/21	日ノ出	森岡ヲ〜二立テ	森岡	森田宿(下森田本町付近)	36.10415904	136.2253712	6	5:42	5:41	5:42	●
8/9	9/22	日ノ出過	〜二立	今庄		35.77288017	136.1967936	132	5:41 ~	5:42 ~	5:41	●
8/11	9/24	巳ノ上剋	ツルガ立	敦賀	大和屋	35.65575605	136.0699178	2	8:28 ~ 9:12	8:25 ~ 9:10	5:45	
8/15	9/28	辰ノ中剋	出船	大垣	前泊地	35.35595009	136.612473	5	6:59 ~ 7:21 ~ 7:43	7:02 ~ 7:48	5:46	
9/3	10/15	辰ノ剋	〜立	伊勢長島	同上	35.09341175	136.6991264	0	6:25 ~ 8:30	6:26 ~ 8:30	5:59	
9/6	10/18	辰剋	出船	大垣		35.35595009	136.612473	5	6:28 ~ 8:32	6:26 ~ 8:30	6:02	

表4 元禄4年曾良旅日記の出発に関する時間

旧暦 日付	陽暦 日付	時間に関 する表記	状況	場所	備考	推定緯度	推定経度	推定 標高	推定時間	日出 時刻	日の 出前
3/4	4/2	未ノ尅	庵ヲ出	深川		35.68407651	139.7956818	2	12:54 ~ 15:12	5:26	
4/8	5/5	辰ノ上尅	広瀬立	広瀬		34.33502134	135.8127764	446	5:38 ~ 6:28	4:59	
4/9	5/6	日ノ出	カミヤヲ立	高野神谷		34.29333653	135.5647847	380	5:02	5:02	●
4/11	5/8	卯ノ中尅	立	長井		33.96911768	135.7359861	208	4:18 ~ 4:23 ~ 4:58	4:59	●
4/12	5/9	巳ノ刻	出船	熊野本宮		33.83850518	135.7747641	60	8:08 ~ 10:38	4:59	
4/13	5/10	卯中尅	濱宮立	濱宮		33.64417517	135.9345996	5	4:18 ~ 4:23 ~ 4:58	4:59	●
4/14	5/11	卯ノ上尅	ウケ川ヲ立	講川		33.82196721	135.7857303	50	3:37 ~ 4:17	4:58	●
4/15	5/12	卯上尅	近露ヲ立	近露		33.80937319	135.6092611	294	3:35 ~ 4:15	4:56	●
4/16	5/13	卯ノ下尅	イナメヲ立	印南		33.81842017	135.2184659	9	4:55 ~ 5:35	4:56	●
4/17	5/14	卯ノ下尅	宿ヲ出	和歌の浦		34.18994287	135.1721368	4	4:57 ~ 5:37	4:58	●
4/18	5/15	卯ノ下尅	立	加太		34.27567791	135.0761781	8	4:56 ~ 5:36	4:57	●
4/19	5/16	夜明	～ニナヲヲ立	名手	明六ツと解す	34.27564079	135.4358549	59	4:20	4:55	●
4/20	5/17	卯ノ下尅	宿ヲ出	堺		34.58336913	135.4783559	4	4:54 ~ 5:34	4:54	●
4/22	5/19	昼時	～常春ノ宅ヲ出 船二趣	天王寺神子町	午中刻と解す	34.653682	135.5136625	19	11:28 ~ 11:54 ~ 12:20	4:51	
4/25	5/22	日出	～坂本ヲ立	坂本	東坂本とした	34.87820364	134.6597202	48	4:52	4:52	●
4/27	5/24	卯ノ尅	兵庫卯ノ尅二立	兵庫津	05/20と同地点	34.65274869	135.1878901	0	3:31 ~ 5:31	4:51	●
5/1	5/28	巳ノ尅	賀茂へ趣	京都田中式昭宅	前泊地、荒神口と解す	35.02135338	135.7674517	50	8:01 ~ 10:36	4:44	
5/13	6/9	早朝	～二北野へ戻テ主ヲ待	小川榎木(凡米)	前泊地、卯上刻と解す	35.01867412	135.7542016	45	3:23 ~ 4:03	4:41	●
5/16	6/12	早朝	～二小川へ来テ北野へ趣	京都史邦	前泊地、御所近辺、卯上刻と解す	35.01742587	135.7631502	46	3:23 ~ 4:03	4:41	●
5/18	6/14	早朝	～二田中へ来ル	京都史邦?	前泊地、御所近辺、卯上刻と解す	35.01742587	135.7631502	46	3:23 ~ 4:03	4:41	●
5/29	6/25	早朝	～二油小路へ行	小川榎木(凡米)	前泊地、卯の上刻とす	35.01867412	135.7542016	45	3:25 ~ 4:05	4:43	●
6/2	6/27	早朝	直庵へ行	京都史邦	前泊地、御所近辺、卯上刻	35.01742587	135.7631502	46	3:26 ~ 4:06	4:44	●
6/14	7/9	辰ノ下尅	符や町へ行	京都田中式昭宅	前泊地を出たと解す	35.02135338	135.7674517	50	7:15 ~ 8:07	4:49	
6/18	7/13	辰ノ中尅	五条橋通 <sup>5</sup> 大忠庵 遊行寺 東本願寺 廟所 開山ノ学問所ノ岩屋 鳥部野等見テ	京都北野	前泊地を出たと解す、杜家町近辺とした	35.03113688	135.7366057	73	6:24 ~ 6:50 ~ 7:16	4:51	
6/21	7/16	巳ノ尅	田中 <sup>5</sup> 二条へ行	京都田中式昭宅	荒神口と解す	35.02135338	135.7674517	50	8:09 ~ 10:44	4:53	
6/26	7/21	辰ノ尅	北野ヲ立	京都北野		35.03113688	135.7366057	73	5:38 ~ 8:12	4:57	
6/27	7/22	辰ノ下尅	立	久我		34.9456128	135.733552	15	7:21 ~ 8:12	4:58	
6/28	7/23	卯ノ中尅	立	芥川	前泊地	34.85202506	135.6131677	16	4:20 ~ 4:24 ~ 5:00	5:00	●
6/29	7/24	辰ノ尅	住吉へ趣	天王寺神子町	前泊地を出たと解す	34.653682	135.5136625	19	5:41 ~ 8:14	5:01	
7/2	7/26	卯中尅	立	天王寺神子町	前泊地を出たと解す	34.653682	135.5136625	19	4:23 ~ 4:27 ~ 5:03	5:03	●
7/3	7/27	辰ノ上尅	立	古市	前泊地を出たと解す	34.55252664	135.6118575	25	5:43 ~ 6:33	5:03	
7/4	7/28	辰上尅	立	金剛山西室坊	前泊地を出たと解す	34.41978973	135.6718189	1086	5:39 ~ 6:30	4:59	
7/5	7/29	辰下尅	立	広瀬	仮に転法輪寺と同じとす	34.33502134	135.8127764	446	7:23 ~ 8:14	5:01	
7/6	7/30	辰中尅	坊ヲ出	山上ヶ岳南坊		34.25289907	135.9413025	1701	6:29 ~ 6:55 ~ 7:21	4:58	
7/8	8/1	卯ノ中尅	廣瀬ヲ立	広瀬		34.33502134	135.8127764	446	4:22 ~ 4:27 ~ 5:02	5:03	●
7/9	8/2	卯ノ中尅	立	王寺村	前泊地	34.59335045	135.7066407	39	4:26 ~ 4:31 ~ 5:06	5:07	●
7/10	8/3	辰ノ下尅	立	加茂	前泊地	34.75263328	135.8691108	41	7:26 ~ 8:16	5:07	
7/12	8/5	卯ノ中尅	立	伊賀上野	前泊地	34.76862763	136.1354837	151	4:25 ~ 4:30 ~ 5:05	5:06	●
7/13	8/6	辰上尅	立	久居超禪寺	前泊地	34.67691743	136.4718347	21	5:45 ~ 6:35	5:07	
7/17	8/10	明方	～降ル 少止ム 立	雲津	前泊地、卯中刻とす	34.66514075	136.511457	4	4:28 ~ 4:34 ~ 5:08	5:10	●

元禄二年の出發時刻としては、辰の刻と巳の刻とが多いのが目につく。既に見た通り、明六ツは卯の刻に含まれるので、辰の刻と巳の刻では既に周囲は明るくなっていると考えられる。<sup>(十一)</sup>「日の出前」の項目は、日の出かそれより前に該当するかどうかを示したものである。なお上刻・中刻・下刻による時間の表し方だと時間に幅が生じるので、その中の早い時刻だと考えた場合と日の出時刻との比較になっている。例えば三月二十四日（陽曆五月十七日）、出發したのは辰の上刻だが、これは現在の五・二三〜六・〇四になる。その時間の早い方、つまり五・二三と日の出の時刻四・三三とを比較している。つまり「なるべく早く出たように解釈する」ことになる。

これを見ると、「日の出前」の項目に印が付いている箇所を見ても、日の出と同じ時刻であり、それよりも早い時刻は無い。つまり元禄二年の旅立ちを概して遅い出立であったと言えるのではないだろうか。

次に元禄四年について見てみる。辰の刻や巳の刻もあるが、元禄二年には無かった卯の刻がかなりの数になっている。繰り返し述べているように卯の刻は明六ツを含む。当然日の出前に出立している場合が三分の二近くになっている。<sup>(十二)</sup>

表3・表4との比較、つまり元禄二年と四年の出發時間を比較すると、曾良が芭蕉と旅した元禄二年の旅立ちは日の出の後が多く、曾良が一人で旅をした元禄四年では日の出前に多く立っていると考えてよさそうだ。

続いて表5・表6を用いて今度は到着時刻について見てみる。項目については表3・表4と同じである。ただし「日没後」とあるのが表3・4とは異なっている。表5・表6では、現在の時間に直した時間帯のうち、なるべく遅い時刻と日没時刻とを比較している。つまり「なるべく遅く着いたと解釈」していることになる。<sup>(十三)</sup>例えば表5の四月二十一日（六月八日）は「申ノ上刻」に到着しているが、これは現在の時間で一五・三七〜一六・三〇に相当すると考えられる。その時間帯のうち遅い方の一六・三〇と日没時刻一九・〇一とを比較していることになる。（それでも日没前に着いていることになる。）

到着時間については、出發時間ほどには顕著な差は認めにくい。それでも元禄二年では申の刻までに到着している場合が多いが、元禄四年では「暮」を含む時間表記が元禄二年よりも多くなっている。また元禄二年では登場しない戌の刻も複数見られる。<sup>(十四)</sup>大まかな傾向として、元禄二年よりも元禄四年の方が遅い時刻に到着している場合が多いと言つてよいと思われる。

以上から考えると、元禄二年に比べて、元禄四年の方が朝早くに出て、遅くに着く場合が多いと考えられる。

表5 元禄2年首良旅日記の到着に関する時間

旧暦日付	陽暦日付	時間に関する表記	状況	場所	備考	推定緯度	推定経度	推定標高	推定時間	早乙女論文推定時間	日没時刻	日没後
3/27	5/16	巳ノ下剋	千住二揚ル	千住大橋		35.73938319	139.7973742	0	9:30 ~ 10:21	9:21 ~ 10:21	18:40	
4/1	5/19	午ノ剋	日光へ着	日光上鉢石町		36.75325509	139.6051691	597	10:20 ~ 12:56	10:20 ~ 12:56	18:50	
4/18	6/5	未ノ下剋	湯本五左衛門方へ着	那須湯本		37.09678986	140.0014481	822	14:45 ~ 15:39	14:39 ~ 15:31	19:03	
4/21	6/8	申ノ上剋	矢吹へ二着	矢吹		37.20544781	140.3260591	287	15:37 ~ 16:30	15:36 ~ 16:39	19:01	
4/29	6/16	日ノ入前	郡山二到テ宿ス	郡山		37.39817555	140.3847264	229	~ 19:04	~ 19:02	19:04	●
5/1	6/17	日未少シ残ル	福嶋へ到テ宿ス	福嶋	日没頃とする	37.75364098	140.464738	70	~ 19:04	19:01	19:04	●
5/4	6/20	夕方	仙臺二着	仙台	夕七ツ半とする	38.26205744	140.8706971	41	18:19	無し	19:04	
5/8	6/24	未ノ剋	塩釜二着	塩釜		38.3179092	141.0174454	10	12:58 ~ 15:39	無し	19:04	
5/9	6/25	午ノ剋	松嶋二着船	松島		38.36958309	141.0620029	2	10:18 ~ 12:58	10:17 ~ 12:58	19:04	
5/12	6/28	黄昏	一ノ関へ二着	一関	日没へ暮六つとする	38.93255295	141.1325799	23	19:06 ~ 19:42	20:39	19:06	●
5/13	6/29	申ノ上剋	~帰ル	一関		38.93255295	141.1325799	23	15:39 ~ 16:33	15:40 ~ 16:33	19:06	
5/14	6/30	及暮	岩手山二宿ス	岩出山	西の上刻へ暮六つとする	38.65308682	140.8659348	54	18:22 ~ 19:43	無し	19:07	●
5/17	7/3	昼過	清風へ着	尾花沢		38.606229114	140.404338	98	11:42 ~	11:40スギ	19:09	
5/27	7/13	未ノ下剋	山寺。~二着	山寺	昼九つすぎとする	38.31157675	140.4353946	237	14:49 ~ 15:43	14:48 ~ 15:41	19:06	
5/28	7/14	未ノ中剋	大石田一英宅二着	大石田	麓とする	38.58740518	140.3734852	62	13:56 ~ 14:23 ~ 14:49	13:56 ~ 14:48	19:05	
6/3	7/19	申ノ刻	近藤左吉ノ宅二着	羽黒山		38.71225612	139.9586789	129	15:43 ~ 18:21	無し	19:04	
6/6	7/22	申ノ上剋	月山二至	月山		38.548454	140.0268862	1984	15:45 ~ 16:38	15:39 ~ 16:31	19:08	
6/7	7/23	及暮	南谷二帰	羽黒山	西の上刻へ暮六つとする	38.70042374	139.9784589	298	18:19 ~ 19:38	無し	19:02	●
6/10	7/26	申ノ刻	霧ヶ岡長山五良右衛門宅二至ル	鶴岡		38.73096123	139.8351954	15	15:40 ~ 18:16	15:36 ~ 18:10	18:58	
6/13	7/29	暮二及テ	~坂田二着	酒田	不玉泊・西の上刻へ暮六つとする	38.91557769	139.8378602	7	18:13 ~ 19:31	無し	18:55	●
6/15	7/31	昼時	吹浦二宿ス	吹浦	午中刻とする	39.07195354	139.8787987	6	11:20 ~ 11:46 ~ 12:12	11:44	18:54	
6/18	8/3	暮二及テ	~酒田二着	酒田	不玉泊・西の上刻へ暮六つとする	38.91557769	139.8378602	7	18:09 ~ 19:26	無し	18:50	●
6/25	8/10	未ノ剋	大山二着	大山		38.75158843	139.7667548	15	13:01 ~ 15:32	12:59 ~ 15:30	18:43	
6/26	8/11	未ノ剋	温海二着	温海		38.62871038	139.5894246	7	13:01 ~ 15:32	12:59 ~ 15:30	18:42	
6/27	8/12	及暮	中村二宿ス	中村	西の上刻へ暮六つとする	38.43924646	139.5929503	112	18:02 ~ 19:18	無し	18:42	●
6/28	8/13	申ノ上剋	~二村上二着	村上		38.22646802	139.4790812	7	15:30 ~ 16:20	15:28 ~ 16:17	18:39	
7/1	8/15	及暮	つみ地村次市長へ着、宿	築地村	西の上刻へ暮六つとする	38.06005386	139.3583831	10	17:58 ~ 19:13	無し	18:37	●
7/2	8/16	申ノ上剋	新潟へ二着	新潟	宗現寺とす	37.92525495	139.0434797	0	15:30 ~ 16:19	15:28 ~ 16:17	18:36	
7/3	8/17	申ノ下剋	弥彦二着ス	弥彦		37.70672818	138.8259579	60	17:08 ~ 17:58	17:01 ~ 17:55	18:36	
7/4	8/18	申ノ上剋	出雲崎二着	出雲崎	弥彦神社とす	37.54246671	138.6865568	6	15:29 ~ 16:18	15:28 ~ 16:17	18:34	
7/5	8/19	申ノ下剋	至鉢崎	鉢崎		37.32089295	138.4375151	6	17:07 ~ 17:56	17:01 ~ 17:55	18:34	
7/8	8/22	未ノ下剋	至高田二	高田		37.11825447	138.2439213	11	14:39 ~ 15:27	14:39 ~ 15:28	18:30	
7/11	8/25	暮テ	~着	能生	暮六つへ西の下刻とする	37.10414255	137.9898001	3	19:03 ~ 19:50	無し	18:27	●
7/12	8/26	午ノ剋	糸魚川二着	糸魚川		37.0448638	137.8577703	3	10:38 ~ 13:02	10:33 ~ 13:01	18:26	
7/12	8/26	申ノ中剋	市振二着	市振		36.98258321	137.6576118	10	16:15 ~ 16:39 ~ 17:03	16:17 ~ 17:06	18:27	
7/13	8/27	申ノ下剋	滑川二着	滑川		36.7670249	137.3385738	1	17:02 ~ 17:50	17:06 ~ 17:55	18:26	
7/14	8/28	申ノ上剋	高岡二へ着	高岡		36.7471538	137.0108749	9	15:28 ~ 16:15	15:29 ~ 16:17	18:27	
7/15	8/29	未ノ中剋	金沢二着	金沢		36.55968519	136.6520678	20	13:53 ~ 14:17 ~ 14:40	13:53 ~ 14:40	18:27	
7/24	9/7	申ノ上剋	小森二着	小松		36.40734673	136.4488555	2	15:21 ~ 16:07	15:19 ~ 16:05	18:14	
7/27	9/10	申ノ下剋	山中二へ着	山中		36.24651864	136.3733178	66	16:51 ~ 17:37	16:52 ~ 17:38	18:11	
8/5	9/18	申刻	全昌寺へへ着	全昌寺		36.3013455	136.3087028	8	15:11 ~ 17:26	15:11 ~ 17:26	17:58	
8/7	9/20	申ノ下剋	~森岡二着	森岡	森田宿(下森田本町付近)	36.10415904	136.2253712	6	16:39 ~ 17:23	16:41 ~ 17:26	17:55	
8/8	9/21	申ノ下剋	今庄二着	今庄		35.77288017	136.1967936	132	16:39 ~ 17:24	無し	17:56	
8/9	9/22	未ノ刻	~ツルカ二着	敦賀	大和屋	35.65575605	136.0699178	2	12:54 ~ 15:08	無し	17:53	
8/9	9/22	夜半	二色へ着	色ノ浜・本隆寺	夜九つとした	35.73025517	136.0341827	6	23:48	23:48	17:53	●
8/11	9/24	申ノ中剋	木ノ本へ着	木ノ本		35.505184	136.225557	126	15:51 ~ 16:13 ~ 16:35	無し	17:51	
8/12	9/25	午ノ剋	長濱二至ル	長濱		35.37957718	136.2672552	86	10:39 ~ 12:52	無し	17:49	
8/15	9/28	申ノ下剋	大智院二着	伊勢長島		35.09051479	136.6934985	0	16:28 ~ 17:12	16:28 ~ 17:12	17:42	
9/3	10/15	及夕	大垣二着	大垣	夕七ツ半とした	35.35595009	136.612473	5	16:52	無し	17:19	
9/6	10/18	申ノ上剋	杉江へ着	杉江		35.12164566	136.6721173	1	14:44 ~ 15:26	14:45 ~ 15:26	17:15	

表6 元禄4年曾良旅日記の到着に関する時間

日曆 日付	陽曆 日付	時間に関 する表記	付帯状況	場所	備考	推定緯度	推定経度	推定 標高	推定時間	日没 時刻	日没 後
3/11	4/9	未ノ尅	名古や荷兮へ五置 着	名古屋荷兮宅		35.175416	136.897046	11	13:04 ~ 15:25	18:21	
3/23	4/21	及暮	大津不屋二着へ。	大津	西上刻~暮六ツとする	35.00348957	135.8699913	100	17:59 ~ 19:12	18:36	●
3/24	4/22	申ノ下尅	飯過テ田中氏ヲ尋テ宿	京都田中式昭宅	荒神口と解す	35.02135538	135.7674517	50	17:10 ~ 17:59	18:36	●
3/27	4/25	暮ル	南都見終テ暮ル 手飼二宿	奈良転害門前町	暮六ツとする	34.69163435	135.8346806	85	19:14	18:38	●
4/8	5/5	申ノ上尅	かミヤへ着	高野神谷		34.23933653	135.5647847	380	15:38 ~ 16:27	18:46	
4/9	5/6	申ノ中尅	大又へ着	大股		34.10567129	135.6301796	650	16:30 ~ 16:55 ~ 17:20	18:50	
4/11	5/8	未ノ下尅	本宮へ着	熊野本宮		33.83850518	135.7747641	60	14:48 ~ 15:38	18:47	
4/12	5/9	未尅	新宮へ着	那智新宮		33.73132868	135.9849387	9	13:07 ~ 15:37	18:46	●
4/13	5/10	日昏テ	~ウケ川二宿ス	請川	暮六ツ~酉下刻とする	33.82196721	135.7857303	50	19:25 ~ 20:09	18:49	●
4/14	5/11	未中尅	近露ニ~二宿ス	近露		33.80937319	135.6092611	294	14:00 ~ 14:25 ~ 14:50	18:52	
4/15	5/12	日昏テ	~一リ斗イナメ二宿	印南	暮六ツ~酉下刻とする	33.81842017	135.2184659	9	19:30 ~ 20:14	18:54	●
4/16	5/13	戌尅	船ニテ和哥~二到ル	和歌の浦		34.27567791	135.0761781	4	20:13 ~ 21:42	18:53	●
4/17	5/14	申ノ下尅	カタニ至テ明神ヲ拝	加太		34.58336913	135.4783559	4	17:24 ~ 18:15	18:55	
4/19	5/15	日暮二及	~戌ノ上尅 境二着	堺	酉上刻~暮六ツとする	34.58336913	135.4783559	4	18:14 ~ 19:31	18:54	●
4/19	5/15	戌ノ上尅	境二着	堺		34.58336913	135.4783559	4	20:14 ~ 20:44	18:54	●
4/20	5/16	未ノ尅	天王寺ヲ見テ山口常春ヲ尋~二及即宿ス	天王寺神子町	北東とも。仮に門前としておく。	34.653682	135.5136625	19	13:10 ~ 15:43	18:55	
4/22	5/19	夜	~終泊	淀川河口	酉下刻~とする	34.6826839	135.4148841	0	19:36 ~	18:57	●
4/24	5/21	未ノ下尅	シカマ津二着	飾磨津		34.79543837	134.6433923	0	14:56 ~ 15:48	19:02	
4/28	5/25	暮二及	川原崎氏二宿ス	山崎川原崎氏	酉上刻~暮六ツとする	34.89155782	135.6801324	16	18:20 ~ 19:38	19:02	●
4/29	5/26	午ノ下尅	久我ニ至	久我		34.9456128	135.733552	15	12:20 ~ 13:11	19:03	
5/5	6/1	日暮	~テ大和やへ行テ宿	京都三条藪屋町	暮六ツと解す	35.00864037	135.7656983	43	19:43	19:07	●
6/22	7/17	午ノ尅	田中へ寄テ北野へ帰ル	京都中村史郎(凡兆)	前泊地を出たと解す。	35.01742587	135.7631502	46	10:45 ~ 13:20	19:12	
6/26	7/21	戌尅斗	日暮テ戌尅斗ニ久我へ来テ宿	久我		34.9456128	135.733552	15	20:28 ~ 21:54	19:09	●
6/27	7/22	及暮	芥川二宿ス	芥川	酉上刻~暮六ツとする	34.85202506	135.6131677	16	18:28 ~ 19:45	19:09	●
6/28	7/23	及暮	生玉ニ至ル	天王寺神子町	酉上刻~暮六ツとする	34.653682	135.5136625	19	18:27 ~ 19:44	19:08	●
7/4	7/28	未ノ上尅	廣瀬二着	広瀬		34.33502134	135.8127764	446	13:19 ~ 14:10	19:06	
7/5	7/29	申ノ中尅	山上ニ到	山上ヶ岳		34.25289907	135.9413025	1701	16:44 ~ 17:10 ~ 17:35	19:08	
7/6	7/30	申ノ中尅	横瀬ニ帰ル 坪内右四り半 峠貳申ノ中 尅也	広瀬	横瀬は廣瀬の誤りか	34.33502134	135.8127764	446	16:42 ~ 17:07 ~ 17:33	19:04	
7/8	8/1	及暮	タル广二行 及暮 宿不借シテ迷	王寺村	酉上刻~暮六ツとする	34.59335045	135.7066407	39	18:20 ~ 19:36	19:00	●
7/9	8/2	戌尅斗	~二嶋ニ到ル	加茂	戌の刻と解す	34.75263328	135.8691108	41	20:19 ~ 21:48	18:59	●
7/10	8/3	暮二及テ	上野二着	伊賀上野	酉上刻~暮六ツとする	34.76862763	136.1354837	151	18:18 ~ 19:34	18:58	●
7/17	8/10	及暮	桑名ニ到ル	桑名	酉上刻~暮六ツとする	35.06805604	136.6966917	5	18:09 ~ 19:24	18:48	●

#### 四 曾良旅日記における行動時間と距離

本稿「三」で元禄二年よりも、元禄四年の方が早く出て遅く着く、つまり一日の行動時間が長いのではないかという結果が出た。そこで更に同日に出発と到着との両方の記述が揃っている場合、つまり何時に出発して何時に着いたのか、曾良の一日の行動時間の長さが明確に分る場合について考えてみる。これについてまとめたのが表7・表8である。

しかし発着の両方が揃って記述してある日数は、発着それぞれの時刻が記してある日数より更に少ない。元禄二年の場合には一五六日間のうち二十四日、元禄四年の場合には一三九日のうち二十二日であり、それぞれともに約十五%となる。決して多い数とは言えないが、旅の実際の一斑を知る手掛りとして考えてみたい。

まず表7・表8の項目について説明する。今回はまず一日の行動時間の長さを出す必要がある。繰り返しになるが、曾良が多用する「上刻・中刻・下刻」などの時間表記には時間の幅がある。そこで最も長く行動した場合、最も短く行動した場合との二通りを考える必要がある。「最早出発」の項目は出発時間として考えられる時間帯のうちの最も早い時刻であり、「最遅出発」の項目は同様に最も遅い時刻である。例えば表7の四月一日（五月十九日）は鹿沼を出発して日光に至っている。出発時間は辰の上刻で、これは五・一〇～六・〇二と考えられる。「最早出発」とはこの時間帯のうち、最も

早く出発した場合の時刻五・一〇であり、「最遅出発」とはこの時間帯のうち、最も遅く出発した場合の時刻六・〇二となる。

到着時刻についても同様である。日光に着いた時間は午の刻であり、これは一〇・二〇～一二・五六と考えられる。「最早到着」は最も早く到着した場合の時刻一〇・二〇、「最遅到着」は最も遅く到着した場合の時刻一二・五六である。

以上により、「最遅出発」～「最早到着」までの時間とは、最も短いと仮定した行動時間であり、これが「最短時間」の項目に該当する。同様に「最早出発」～「最遅到着」までの時間とは、最も長いと仮定した行動時間であり、「最長時間」の項目に該当する。

表7・表8の最下欄に平均を示した。但し船での移動を含む場合は除外してあるので、歩行を中心とした陸上移動の場合のみを考えている。

表7元禄二年の一日あたりの平均行動時間は、最も短い場合で七時間一二分、最も長い場合で九時間三六分となっている。これに対し表8元禄四年の一日あたりの平均行動時間は、最も短い場合で十二時間、最も長い場合だと十四時間二十四分にもなる。

これは本稿の「三」で示した結果、すなわち元禄二年よりも、元禄四年の方が行動時間が長いという結果と矛盾しない。或る意味当然とも言えるだろう。元禄二年の最長で考えた場合の平均行動時間七時間一二分と、元禄四年の最長で考えた場合の平均行動時間十四時間とを比べると実に二倍にもなる。



表7 元禄2年曾良旅日記の発着に関する時間

旧暦 日付	陽暦 日付	出発地	出発時刻	出発時刻	最速 出発	最遅 出発	到着地	到着時刻	到着時刻	到着時刻	最速 到着	最遅 到着	最長 時間	最速 速度	最遅 速度	
3/27	5/16	深川	日出	4:35	4:35	4:35	千住大橋	9:30~10:21	9:30	10:21	4:55	5:46	10	2	1.7	
4/1	5/19	鹿沼	辰上刻	5:10~6:02	5:10	6:02	日光上鉢石町	10:20~12:56	10:20	12:56	4:18	7:46	30	7	3.9	
4/18	6/5	高久	午ノ刻	10:18~12:58	10:18	12:58	那須湯本	14:45~15:39	14:45	15:39	1:47	5:21	15	8.4	2.8	
4/29	6/16	須賀川	巳中刻	8:31~8:58~9:25	8:31	9:25	郡山	~19:04	19:04	19:04	9:39	10:33	28	2.9	2.7	
5/1	6/17	郡山	日出	4:14	4:14	4:14	福島	~19:04	19:04	19:04	14:50	14:50	47	3.2	3.2	
5/4	6/20	白石	辰ノ刻	4:57~7:38	4:57	7:38	仙台	18:19	18:19	18:19	10:41	13:22	51	4.8	3.8	
5/8	6/24	仙台	巳ノ刻	7:38~10:18	7:38	10:18	塩釜	未ノ刻	12:58	15:39	2:40	8:01	24	9	3	
5/9	6/25	塩釜	辰ノ刻	4:56~7:37	4:56	7:37	松島	午ノ刻	10:18	12:58	2:41	8:02	8	3	1	
5/13	6/29	一関	巳ノ刻	7:37~10:18	7:37	10:18	一関	15:39~16:33	15:39	16:33	5:21	8:56	22	4.1	2.5	
5/27	7/13	尾花沢	辰ノ中刻	5:59~6:26~6:52	5:59	6:52	山守	14:49~15:43	14:49	15:43	7:57	9:44	37	4.7	3.8	
6/28	8/13	中村	朝	4:52~	4:52	4:52	村上	15:30~16:20	15:30	16:20	10:38	11:28	30	2.8	2.6	
7/1	8/15	村上	巳ノ刻	8:03~10:31	8:03	10:31	築地村	及暮	17:58~19:13	17:58	19:13	7:27	11:10	25	3.4	2.2
7/2	8/16	築地村	辰ノ刻	5:36~8:04	5:36	8:04	新潟	申ノ上刻	15:30~16:19	15:30	16:19	7:26	10:43	36	4.8	3.4
7/4	8/18	弥彦	辰ノ上刻	5:38~6:28	5:38	6:28	出雲崎	申ノ上刻	15:29~16:18	15:29	16:18	9:01	10:40	32	3.5	3
7/5	8/19	出雲崎	辰ノ上刻	5:41~6:30	5:41	6:30	鉢崎	申ノ下刻	17:07~17:56	17:07	17:56	10:37	12:15	39	3.7	3.2
7/11	8/25	高田	巳ノ下刻	9:48~10:36	9:48	10:36	能生	暮ノ	19:03~19:50	19:03	19:50	8:27	10:02	35	4.1	3.5
7/27	9/10	小松	巳ノ上刻	8:23~9:09	8:23	9:09	山中	16:51~17:37	16:51	17:37	7:42	9:14	24	3.1	2.6	
8/7	9/20	全昌寺	辰ノ中刻	6:56~7:18~7:40	6:56	7:40	森岡	申ノ下刻	16:39~17:23	16:39	17:23	8:59	10:27	35	3.9	3.3
8/8	9/21	森岡	日ノ出	5:42	5:42	5:42	今庄	申ノ下刻	16:39~17:24	16:39	17:24	10:57	11:42	44	4	3.8
8/9	9/22	今庄	日ノ出	5:41~	5:41	5:41	敦賀	未ノ刻	12:54~15:08	12:54	15:08	7:13	9:27	29	4	3.1
8/11	9/24	敦賀	巳ノ上刻	8:28~9:12	8:28	9:12	木ノ本	申ノ中刻	15:51~16:13~16:35	15:51	16:35	6:39	8:07	28	4.2	3.4
8/15	9/28	大垣	辰ノ中刻	6:59~7:21~7:43	6:59	7:43	伊勢長島	申ノ下刻	16:28~17:12	16:28	17:12	8:45	10:13	35	4	3.4
9/3	10/15	伊勢長島	辰ノ刻	6:25~8:30	6:25	8:30	大垣	及夕	16:52	16:52	16:52	8:22	10:27	35	4.2	3.3
9/6	10/18	大垣	辰刻	6:28~8:32	6:28	8:32	杉江	申ノ上刻	14:44~15:26	14:44	15:26	6:12	8:58	30	4.8	3.3
										平均	7:12	9:36	32.2	4.5	3.1	

3/27	5/16	日光養源院
4/1	5/19	日光養源院
4/18	6/5	日光養源院
4/29	6/16	石川瀧 大元明王
5/1	6/17	安積山 黒塚
5/4	6/20	竹駒明神
5/8	6/24	重の碑 末の松山 興井 野田の玉川 おもわくの橋 浮島
5/9	6/25	塩竈明神 松島 (瑞巖寺、雄島、八幡、五大堂)
5/13	6/29	高館、衣川、衣の関、中尊寺、光堂、泉城、さくら川、さくら山、秀衡邸、金鷄山、新御堂、無量光院跡
5/27	7/13	立石寺
6/28	8/13	
7/1	8/15	泰叟院、乙宝寺
7/2	8/16	
7/4	8/18	蓮華寺
7/5	8/19	
7/11	8/25	五智国分寺、居多神社
7/27	9/10	
8/7	9/20	
8/8	9/21	(新田塚)
8/9	9/22	氣比神宮
8/11	9/24	
8/15	9/28	
9/3	10/15	
9/6	10/18	

表8 元禄4年普良旅日記の発着に関する時間

旧暦 日付	陽暦 日付	出発地	推定出発時刻	最早 出発	最遅 出発	到着地	到着時表記	推定到着時刻	最早 到着	最遅 到着	最長 時間	推定移 動距離	備考	最速 速度	最遅 速度
4/8	5/5	広瀬	5:38 ~ 6:28	5:38	6:28	高野神谷	申ノ上尅	15:38 ~ 16:27	15:38	16:27	9:10	47		5.1	4.3
4/9	5/6	高野神谷	5:02	5:02	5:02	~ 大股	申ノ中尅	16:30 ~ 16:55 ~ 17:20	16:30	17:20	11:28	32		2.8	2.6
4/11	5/8	長井	4:18 ~ 4:23 ~ 4:58	4:18	4:58	熊野本宮	未ノ下尅	14:48 ~ 15:38	14:48	15:38	9:50	21		2.1	1.9
4/12	5/9	熊野本宮	8:08 ~ 10:38	8:08	10:38	熊野新宮	未尅	13:07 ~ 15:37	13:07	15:37	2:29	53	船39km	21.3	7.1
4/13	5/10	濱宮	4:18 ~ 4:23 ~ 4:58	4:18	4:58	請川	日昏テ	19:25 ~ 20:09	19:25	20:09	14:27	53		3.7	3.3
4/14	5/11	請川	3:37 ~ 4:17	3:37	4:17	近露	未中尅	14:00 ~ 14:25 ~ 14:50	14:00	14:50	9:43	32		3.3	2.9
4/15	5/12	近露	3:35 ~ 4:15	3:35	4:15	印南	日昏テ	19:30 ~ 20:14	19:30	20:14	15:15	62		4.1	3.7
4/16	5/13	印南	4:55 ~ 5:35	4:55	5:35	和歌の浦	戌尅	20:13 ~ 21:42	20:13	21:42	14:38	38		2.6	2.3
4/17	5/14	和歌の浦	4:57 ~ 5:37	4:57	5:37	加太	申ノ下尅	17:24 ~ 18:15	17:24	18:15	11:47	23		2	1.7
4/19	5/15	名手	4:20	4:20	4:20	堺	戌ノ上尅	20:14 ~ 20:44	20:14	20:44	15:54	52		3.3	3.2
4/20	5/16	堺	4:54 ~ 5:34	4:54	5:34	天王寺神子町	未ノ尅	13:10 ~ 15:43	13:10	15:43	7:36	20		2.6	1.8
4/22	5/19	天王寺神子町	11:28 ~ 11:54 ~ 12:20	11:28	12:20	淀川河口	夜	19:36 ~	19:36	19:36	7:16	13	船8km	1.8	1.6
6/26	7/21	京都北野	5:38 ~ 8:12	5:38	8:12	久我	戌尅斗	20:28 ~ 21:54	20:28	21:54	12:16	37		3	2.3
6/27	7/22	久我	7:21 ~ 8:12	7:21	8:12	芥川	及暮	18:28 ~ 19:45	18:28	19:45	10:16	25		2.4	2
6/28	7/23	芥川	4:20 ~ 4:24 ~ 5:00	4:20	5:00	天王寺神子町	及暮	18:27 ~ 19:44	18:27	19:44	13:27	47		3.5	3.1
7/4	7/28	金剛山西室坊	5:39 ~ 6:30	5:39	6:30	広瀬	未ノ上尅	13:19 ~ 14:10	13:19	14:10	6:49	25		3.7	2.9
7/5	7/29	広瀬	7:23 ~ 8:14	7:23	8:14	山上ヶ岳	申ノ中尅	16:44 ~ 17:10 ~ 17:35	16:44	17:35	8:30	26		3.1	2.5
7/6	7/30	山上ヶ岳南坊	6:29 ~ 6:55 ~ 7:21	6:29	7:21	広瀬	申ノ中尅	16:42 ~ 17:07 ~ 17:33	16:42	17:33	9:21	38		4.1	3.4
7/8	8/1	広瀬	4:22 ~ 4:27 ~ 5:02	4:22	5:02	王寺村	及暮	18:20 ~ 19:36	18:20	19:36	13:18	49		3.7	3.2
7/9	8/2	王寺村	4:26 ~ 4:31 ~ 5:06	4:26	5:06	加茂	戌尅斗	20:19 ~ 21:48	20:19	21:48	15:13	49		3.2	2.8
7/10	8/3	加茂	7:26 ~ 8:16	7:26	8:16	伊賀上野	暮二及テ	18:18 ~ 19:34	18:18	19:34	10:02	35		3.5	2.9
7/17	8/10	雲津	4:28 ~ 4:34 ~ 5:08	4:28	5:08	桑名	及暮	18:09 ~ 19:24	18:09	19:24	13:01	55		4.2	3.7
									平均	12:00	14:24	38.3		3.3	2.8

4/8	5/5															
4/9	5/6	高野山境内														
4/11	5/8	熊野本宮														
4/12	5/9	熊野新宮														
4/13	5/10	那智の滝、観音堂														
4/14	5/11	熊野本宮														
4/15	5/12															
4/16	5/13															
4/17	5/14	和歌浦、経堂 (海禅院多宝塔?)、東照宮、紀三井寺、加太明神														
4/19	5/15	榎尾施福寺、信太森、大島明神														
4/20	5/16	妙国寺、金光寺の藤、開口神社、百舌鳥神社、大仙陵、天王寺														
4/22	5/19															
6/26	7/21	西光寺西行桜、松尾大社、勝持寺、金蔵寺、三鈷寺、善峯寺、光明寺、向明神														
6/27	7/22	水瀨屋敷、小侍従碑、金龍寺、能因塚、伊勢寺、上宮天満宮														
6/28	7/23	總持寺、勝尾寺、崇禪寺?、中島惣社?、生玉社														
7/4	7/28	高天寺														
7/5	7/29	山上ヶ岳大峯山寺														
7/6	7/30	山上ヶ岳、白飯寺														
7/8	8/1	叡傍神功皇后社、久米寺、神武陵、宗我座我部比古神社、当麻寺														
7/9	8/2	達磨寺、竜田大社、廣瀬明神、竜田神社、法隆寺、粟師寺、唐招提寺、菅原神社、伏見西陵、西大寺、法花寺、眉間寺														
7/10	8/3	笠置寺														
7/17	8/10															

ここで更に出発地と到着地間の距離がわかれば、距離を「最短時間」で割ったものが「最速（移動）速度」の項目となり、「最長時間」で割ったものが「最遅（移動）速度」の項目となる。

距離を知るには芭蕉や曾良が歩いた経路がわからなければならず、時間の換算以上に不確定な恣意的要素が入らざるを得なくなるが、敢えて示してみたのが「推定移動距離」の項目である。<sup>(十五)</sup>

ここでも元禄二年よりも四年の方が移動距離は長くなっている。四年の方が行動時間が長いことから当然とも言える。しかし移動距離が長ければより時間が掛るとは言えるが、行動時間が長いからと言って必ずしも移動距離も長くなるとは限らない。つまり曾良は行動時間が長くなっている分、「きちんと」それだけ実際に多く行動していることになる。

元禄二年と四年における行動時間と距離の違いは、あくまでも想像の域を出ないが、芭蕉との二人旅であった元禄二年と、一人旅であった元禄四年という旅の違いが原因になっているのかもしれない。そうすると元禄二年の旅の方が、時間と距離に余裕のある旅であったようにも思われる。

次に移動速度を算出してみる。表7・表8に示したように、元禄二年では、最も速く移動した場合で平均時速四・五km、最もゆっくりと移動した場合で平均時速三・一kmである。一方元禄四年では、最も速く移動した場合で平均時速三・三km、最もゆっくりと移動した場合で平均時速二・八kmである。元禄二年・四年とも移動速度と

しては、徒歩による速度と考えても特別速い速度ではなく、あちこちと立ち寄っていることから考えても自然な数字であると言っているであろう。<sup>(十六)</sup>

また若干ではあるが元禄二年の方が移動速度が速い結果になり、これはやや意外であった。一人で行動するよりも二人で行動する方が時間が取られがちかと思われるからである。

ただしその理由は、元禄四年では曾良が一人であるために、時間も距離も、やや無理があるのではないかと思われるほどに費やして、多くを見て回っているからとも考えられる。表7・表8の下方に示したのが、表の日付と同日に見て回っていると思われる寺社史跡の類である。（なお？を付けてあるのは、実際に見たのか通っただけなのか今一つ分りづらい所である。）これも単純に記載されている数が多いから時間が掛るとは一概には言えない。各所が近くにまわっているか離れているかで、見物に費やす時間に違いがあることも経験的に分りやすいことだろうと思う。それでもこれを見ると、やはり大まかな傾向として、元禄二年よりは元禄四年の方が多くの箇所を回っているように思われる。

尤も更に、見て回る場所の多寡という点に関して言うならば、その理由を、元禄二年の旅が奥州への旅であったのに対し、元禄六年が近畿地方を回る旅であったことに求めてもよいかもしれない。近畿地方の方が見て回る場所が多いだろうことは、容易に想像がつくからである。

## 五 最後に

以上、曾良が残した元禄二年と四年の旅日記に記された発着の時刻表記を現代の時刻制度に直すことで、その旅の実態について考えてみた。元禄二年と四年とでは、四年の方が行動時間も移動距離も長いことがわかった。また当然の結果かもしれないが、いずれも移動速度としては徒歩としても違和感の無い速度であることが導き出された。同じ日のうちで何時に出発し、何時に到着したのか、移動した距離はどれくらいだったかを考察することで、少しは芭蕉と曾良の旅の実態の一斑を具体的に考えることができたかと思う。

曾良は芭蕉と旅する際でも、芭蕉に配慮して歩く速度を遅くしたというようなことは考えにくいとは言えそうだ。しかし芭蕉と旅した元禄二年『おくのほそ道』の旅では、一日当りの行動時間と距離、そして見物して回る場所の数でも、無理することのない、ややゆとりのある旅であったと言えるかもしれない。

### 注

- (一) ただし刊行されている『おくのほそ道』に併載されている曾良旅日記の多くでは、芭蕉と行動を共にした九月六日を以て終えているものが多い。本稿もそれに倣い九月六日までを対象とした。
- (二) 曾良がどのようにして制限を知ったのかについては依然詳細は不明な点があるが、旅の道具として紙縊を用いた日時計が当時から存在していたという。しかし曾良は天候が悪い場合でも「何々の

刻中止」のように制限を記している場合があり、この場合には日時計を用いた可能性は無くなる。また曾良が旅した元禄時代は全国的に鐘が普及した時代でもあり、天候が悪い場合でも鐘の音で時刻を知った可能性はある。ただ当時からかなりの辺鄙と思われる地でも刻限表記を記している場合があり疑問も残るといえる。『時計の社会史』（角山栄、中公新書、一九八四・一）五七～八七ページ「奥の細道の時計」参照。

- (三) 当時はこれほど厳密に時間を計っていたわけではないから問題が無かっただろうことは想像が付く。但し暦学史的にこのことがどのように考えられていたかについては分らなかった。

- (四) 明石における南中時刻も、天体現象としては十二時で一定しているわけではなく、年間を通して変動している。

- (五) 長沢工、『日の出・日の入りの計算 天体の出没時刻の求め方』、地人書館（一九九一・十二）など。

- (六) 国立天文台・暦計算室「こよみの計算」<http://ecomtk.nao.ac.jp/cgi-bin/koyomi/koyomix.cgi>

- (七) これには『日本暦西暦月日対照表』（野島寿三郎、日外アソシエーツ／紀伊國屋書店、一九八七・一）を用いた。

- (八) 標高についてはルートラボのページ (<http://latlonglab.yahoo.co.jp/route/>) によっている。

- (九) 橋本万平、『日本の時刻制度 増補版』昭和四一年九月、一四九～一五六ページ。

浦井祥子、『江戸の時刻と時の鐘』、平成一四年二月、一七七―一八三ページ。

(十) 早乙女常太郎、『曾良旅日記』の時刻(『俳文藝』、第二三三号、俳文藝研究会、一九八四・六)、『おくのほそ道』の不定時法時刻(『俳文藝』第二五号、俳文藝研究会、一九八五・六)。

(十一) 既述のとおり明六ツは日の出の三十六分前、暮六ツは日の入りの三十六分後であるが、これは現在の「夜明け」「日暮れ」に相当するとされており、太陽の中心の角度のマイナス七度二十一分四十秒に当る。この時間は別に「薄明」とも呼ばれており、詳細には太陽の角度がマイナス五〇分六度の「常用薄明」(『市民薄明』とも)にほぼ該当する。日の出直前または日没直後の約三十分(季節により変動する)であり、周囲の様子が変わる明るさとされる。

(十二) ただし「早朝」が何時頃なのかについては問題がある。ひとまず卯の上刻としたが、これについては本稿の恣意性が入っていることを断っておく。「朝」とあるのは日の出以降とした。

(十三) 到着に関する時間表記では、曾良が度々用いる「暮二及テ」や「暮テ」が問題になる。やはり恣意性が入ってしまうが、ひとまず「暮二及テ」は西の上刻、暮六ツ、「暮テ」は暮六ツから西の下刻とした。なお「夕方」は夕七ツ半、「夜」は西の下刻以降とした。

(十四) ただし元禄二年でも八月九日(九月二十二日)に「色濱へ趣。海上四り。戌刻、出船」という記述はある。

(十五) 距離については標高と同様ルートラボのページによっている。また経路については以下の書籍等を参考にした。

丸山一彦監修、『下野のおくのほそ道』、栃木県文化協会(一九七七・三)

安藤典子編、『奥の細道を旅する』、日本交通公社(一九九六・一〇)  
金森敦子、『カラー版芭蕉「おくのほそ道」の旅』、角川書店 one テーマ21(二〇〇四・一)

萩原恭男監修、『図説 地図とあらすじで読む おくのほそ道』、青春出版社(二〇〇六・一〇)

(十六) なお船での移動を含む場合については除外している。元禄二年では三月二十七日に深川から千住まで、五月九日に塩竈から松島まで船に乗っているが、時速一、二キロ程度である。この速度を和船の速度として遅いと言って妥当かどうか不明であるが、元禄四年四月十二日には最も遅く移動した場合でも時速七キロ、最も早く移動したと考えると時速二一キロで移動しており、この時には熊野本宮から熊野新宮まで、曾良も「出船」と記しているように船で川下りをした為に速かったと考えられる。

# **The Survey of the time and the moving distance esp. about the arrival and departure in Travel Diary written by KAWAI Sora in 1689 and 1691**

AIZAWA, Hirokazu

This paper is intended to show the difference of travels in 1689 (Genroku 2) and 1691 (Genroku 4) of Travel Diary written by KAWAI Sora.

The travel in 1689 is famous of Oku no Hosomichi (Narrow Road to the Deep North) . Basho, the author of Oku no Hosomichi, went to the Deep North accompanied by Sora who wrote the simple but detailed diary called as like Sora's Travel Diary or Sora's Attendant Diary etc. And after two years, in 1691 Sora also wrote the another travel diary that he traveled alone around Kinki region, which is called as like Diary of Toured in Kinki etc.

Sora often wrote the time of the arrival and the departure in form of the Japanese classical timetable method. This paper converts the time in form of the old style into the present method of time. By this method this paper shows the Sora's correct action time and moving distance. And by the comparison the of time in 1689 between that in 1691, this paper is intended to show the difference of the fact in the both travels.